

KANDA NISSHO MEMORIAL MUSEUM of ART

神田日勝記念美術館だより



「人間A」 1969年

2007.3.31

24

contents

- 2 高橋揆一郎前館長、逝去
「HORSE-北海道の馬文化」展に「開拓の馬」出品
- 3 「素描と作品」(前期常設展)
「神田日勝とマスメディア」(後期常設展)
TV番組「美の巨人たち」等で美術館紹介
- 4 版画作品による「東山魁夷の世界」
鉛筆画の世界「私の駆馳十大弟子」原画・
「仮面の世界」展
十勝管内水彩作家展「水への誘い」
赤絵の世界「斎藤吾朗の軌跡展」
- 5 平成18年度特別企画展「海と大地と空と」
関連事業～ギャラリー・トークと美術講座
- 6 第12回蕪聖祭
第14回馬耕忌
「ACT5展」
- 7 「木下晋 絵本原画展」
第4回日勝祭
- 8 第12回馬の絵作品展
表彰式
鹿追高校生、ボランティアとして活動
馬の絵写生会
- 9 アート・キッズ・クラブ2006
キッズ・ボランティア活動報告
- 10 夏休み子どもワークショップ
冬休み子どもワークショップ
春休み子どもワークショップ
- 11 町内の小中学校の神田日勝についての
授業の取り組みから
感想ノートより…21
- 12 子ども芸術鑑賞ツアー
芸術鑑賞バスツアー
神田日勝記念美術館のホームページ開設
「馬(絶筆)」をイメージしたお菓子発売



KANDA NISSHO MEMORIAL MUSEUM of ART
神田日勝記念美術館

T081-0292
北海道河東郡鹿追町東町3丁目2
TEL(0156)66-1555
<http://kandanissho.com/>

高橋揆一郎前館長逝去

（一〇〇七年）月三十日

神田日勝記念美術館長として七年間館運営に尽力された高橋揆一郎氏が逝去されました。「馬の絵作品展」や「アミリー美術館」を提唱、大きな足跡を残しました。

さよなら一代目館長

神田日勝記念美術館長 小檜山 博

神田日勝記念美術館の二代目館長だった高橋揆一郎さんが亡くなられた。多才で人柄がよく、北海道人特有の開放的かつ他人を疑わない人で、二代目を引き継いだばくなど足元にも及ばないほど素晴らしい方だつた。

高橋さんは炭鉱に生まれて苦学し、ぼくは貧乏な炭焼き小屋に生まれ育つことでの共通点があり、ぼくらは飲むたびに、「似てる、似てる」と言い合いながら酔つぱらったものだ。

共通点といえば、カラオケでもよく歌つた。高橋さんの得意な曲は「東京ラブソディー」や「硝子のジヨン」だつたが、特にフランク永井の「霧子のタンゴ」はぼくもかなり自信のある曲で、「一人で歌いくらべをしたくらいだった。

★

高橋さんは、他人に世話をした恩をいつまでも忘れない



平成13年の馬の絵作品の審査風景



平成11年の馬耕忌にて吉田豪介氏と対談

高橋さんは、他人に世話をした恩をいつまでも忘れない人で、彼がまだ文壇に出る前の、勤めをやめ作家をめざして必死に書いていたころ、ぼくが二回か三回くらい、居酒屋で安酒を「しちそうした」ときぼくは、高橋さんから、人生の苦しみを知っている人間がもつ優しさとは何か、友情とは何かを教わった気がする。ありがとう一代目館長。

もちろんないしめた額でもなかつたはずだが、高橋さんは芥川賞をもらったあと、顔を合わせるたびにぼくがごちそうしたことを持ち出し「今度は俺が払う、今日は俺が払う」と、ぼくに飲み代を出させなくなりつたのだ。

そんなことが何回もつづき、ぼくが払おう

北道開拓記念館の企画展「HORSE—北海道の馬文化展」に当館の受託作品「開拓の馬」が出品されました。



神田日勝 「開拓の馬」1966年

この展覧会は、北海道の産業や生活文化と深い関わりを持ってきた馬について、さまざまな観点から北海道の馬文化をたどるもので、そのプロローグという形で展示了。紹介されました。

神田日勝の描いた馬が農耕馬であったことから、象徴的な作品として取り上げられ、ポスターやチケットに「開拓の馬」が採用、広く知られる機会にもなりました。

「HORSE—北海道の馬文化展」に
「開拓の馬」出品

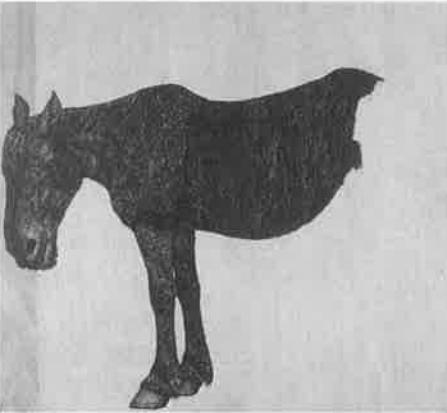
会期：一〇〇六年四月二十八日～六月二十五日

会場：北海道開拓記念館

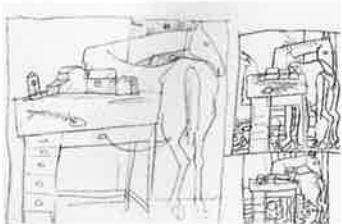
平成十八年度常設展

「素描と作品」(前期常設展)

四月一十五日～十一月五日



「馬(絶筆)」1970年



「馬」(素描)1970年頃

神田日勝は、鉛筆やコンテ、墨などで描いた素描を数冊のスケッチブックに残しています。

本展では、「馬」や「雪の農場」など数点の油彩と素描を並べて展示し、その創造の軌跡をたどりました。

本展では、NHK帯広放送局が制作した「若者の素顔」のための背景画を中心、日勝とマスマディアとの関わりを数点の作品を通して紹介しました。



「若者の素顔」のための背景画 1969年

「神田日勝とマスマディア」(後期常設展)

十一月五日～四月二十一日

テレビ番組「美の巨人たち」等で
神田日勝記念美術館を紹介

八月二十六日 テレビ東京

神田日勝記念美術館

北海道河東郡鹿追町



8.26 神田日勝
馬

番組宣伝の車吊広告の一部

八月二十六日放映の「美の巨人たち」の大原美術館を始めとする「夏休み！美術館へ行こう」シリーズの中で、北海道を代表する美術館として取上げられました。番組では、十勝の自然の中にたたずむ美術館と「馬(絶筆)」をクローズアップし、日勝の生い立ち、戦後開拓の時代や馬との関わり、そしてミサ子夫人の回想などを織り交ぜ、日勝の作品世界を紹介していました。ビヤにペインティングナイフで描く方法などについても久野和洋教授の実物の模写を交えて紹介しました。

また「ハイと人」という作品では、壁に貼られた新聞やポスターと壁の背後の無表情な男が対比的に描かれ、高度成長期のただ中に生きる人間の姿が暗示されているように見えます。この他にも「雪の農場」や「家と人」など、構図の工夫が素描には多く見られます。

日勝は馬の素描をスケッチブックに数多く残しています。

さまざまなボーズの馬、家の中の机などと組み合わされ、試行錯誤のあとがうかがえます。「馬(絶筆)」がどのように仕上げられたのか想像させるものとして興味深いです。

この他にも「雪の農場」や「家と人」など、構図の工夫が素描には多く見られます。

版画作品による 「東山魁夷の世界」

四月二十一日～五月七日 鹿追町民ホール



東山魁夷「緑の詩(リトグラフ)」1997年

日本画の大
家東山魁
夷の版画三
十四点を集
めた「東山魁
夷の世界」展
が開催され
ました。

東山魁夷
は東京美術
学校(現東京
芸大)卒。

ドイツ留学
を経て、日展
などに出品、
文化勲章授
章。山や森な
どの自然を
幽玄な雰囲
気のうちに
描き、ファンも多くいます。然別湖周辺を描いた作品も
あります。

今回の展覧会は、長野県の版画工房「森工房」所有
のリトグラフ(三十四点)が出品されました。

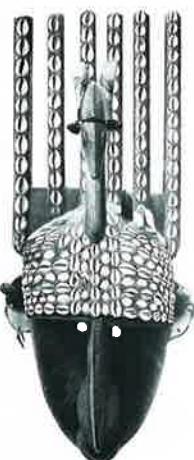
大判のリトグラフは日本画のオリジナルの特徴をよ
く伝え、来場者は、静謐な作品世界に堪能していまし
た。

鉛筆画の世界「私の釈迦十大弟子」原画 ・「仮面の世界」展

四月二十五日～五月七日 美術館二階展示室



多賀新「目犍連／モッガラーナ」2005年



府川博章「パンバラ」2005年

十勝管内水彩作家展 「水への誘い」

六月十七日～六月二十六日 鹿追町民ホール



十勝管内で制作を続
けている水彩作家三十人による
展覧会が瀧川秀敏氏の協力を得て実現しました。
水彩作家を網羅した企画としては初めての試みであ
り、十勝の季節感溢れる風景や人物、咲き誇る花など
水彩のみずみずしい色彩が来場者を魅了していました。

赤絵の世界 「斎藤吾朗の軌跡展」

八月五日～八月十六日 鹿追町民ホール



斎藤吾朗「おばあさんのモナ・リザ」1998年

愛知県西尾市在
住で独立展員の斎
藤吾朗氏は、日本人

として初めてルーブル

美術館で「モナ・リ
ザ」の公式模写を行
い、また赤い色を基調
とした「赤絵」で知ら
れる画家。今回は代
表作「おばあさん」の
モナリザ」はじめ三十七点を展示。その独特な細密画

の世界に来場者は食い入るように鑑賞していました。
なお、斎藤氏は多摩美術大学大学院在学中に神田
日勝の「室内風景」に強い印象を持ったそうです。

平成十八年度特別企画展

「海と大地と空と」

十一月七日～十一月三日
神田日勝記念美術館

関連事業
ギャラリー・トーク(十一月二十八日)

網走市立美術館 鹿追町民ホール

網走市立美術館で
神田日勝記念美術館の学芸員によるギャラリー・トークが行われました。



居串佳一「海に生く」1936年



岩橋英遠「誌(一)」1982年

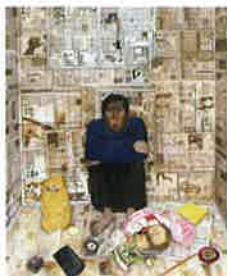


神田日勝「馬」1965年

平成十八年度特別企画展「海と大地と空」とは、北海道の自然を海、大地、空と三つの要素にわけて、それぞれの風土を色濃く反映した画家を抽出して構成。



板内忠男「翼」1969年



神田日勝「室内風景」1970年



松樹路人「M氏の日曜日」1979年

日勝の「家」「馬」「死馬」など十勝の開拓農民として生きた生活に根ざした作品から土の匂いを感じさせ、寺島春雄の「凍土」は厳しい冬の十勝を想わせ、松島正幸の「札幌雪日」はブルーグレーの色調で暮れゆく街並みをしつとりと描いています。

「空」では、柄内忠男の「翼」が青と白のコントラストの中に貝殻を想わせる雲を配置し、松樹路人の「M氏の日曜日」は気球が浮かぶ澄んだ空とかなたの地平線の交差点に画家の家族を象徴的に描き、岩橋英遠の「誌(一)」は山の頂から立ち上る噴煙を描き、自然の大さを感じさせます。

岩内港はかつて鮫漁で栄えた往事を彷彿とさせ、国松登の「水上の人」は北に生きる人間と動物を詩情豊かに描いています。

「大地」では、神田金次郎の「夏の岩内港」はかつて鮫漁で栄えた往事を彷彿とさせ、国松登の「水上の人」は北に生きる人間と動物を詩情豊かに描いています。

鹿追では、網走市立美術館の学芸員古道谷朝生氏による美術講座が行われました。



居串佳一「朝霧(北方)」1944年



古道谷 朝生 氏

プロフィール

昭和41年8月5日生まれ。女満別町(現大空町)出身。名古屋芸術大学美術学部絵画科(洋画専攻)卒。平成1年4月から平成8年まで網走市立第三中学校の美術教諭として勤務。平成8年4月から網走市立美術館に勤務し、現在に至る。

網走で育った居串佳一の作品について、「居串の作品の中の水平線は少し斜めに描かれているのが興味深いところ」などと構図や作風の特徴について語り、他にも網走に縁のある松樹路人など網走市立美術館のコレクションを中心で解説。また美術館で行っている絵画教室などの催しについても紹介し、今回の両館の共催による展覧会の実現についても美術館同士の交流が今後大事であると語りました。来場者はスライドを交えたわかりやすく時折ユーモアを交えた話に引き込まれていました。

第十一回蕪翠祭

六月十七日

神田日勝記念美術館・鹿追町民ホール



移し、恒例となつたワインとチーズの交流会を開催、十勝管内水彩作家展「水への誘い」のオープニングも兼ねて行われ、盛会でした。

曲目は「見上げてごらん夜の星を」「赤とんぼ」、天空の城ラピュタから「君を乗せて」など約十曲。

指揮は江本欣秀氏、ピアノ伴奏は、大原祐理子氏。

町内や十勝管内などから約一七〇名の日勝や合唱のファンが集まり、聴き入っていました。

演奏後、会場を町民ホールに

ミュージアムコンサートでは、帯広の男声合唱団「コール・ブリューデル」が美術館の展示室いっぱいに重厚な歌声を響かせました。

曲目は「見上

げてごらん夜の星を」「赤とんぼ」、天空の城ラ

ピュタから「君を

乗せて」など約十曲。

指揮は江本欣

秀氏、ピアノ伴

奏は、大原祐理

子氏。

町内や十勝管

内などから約一

七〇名の日勝や

合唱のファンが

集まり、聴き入

っていました。

演奏後、会場

を町民ホールに

移し、恒例となつたワインとチーズの交流会を開催、十勝管内水彩作家展「水への誘い」のオープニングも兼ねて行わ�、盛会でした。

第十四回馬耕忌

八月二十日 鹿追町民ホール

学芸主幹の土方明司氏

をメインゲストに迎え、

「神田日勝を語る」と題

する講座が行われました。

土方氏は以前勤務して

いた練馬区美術館で「神

田日勝と深井克美展」を

担当した経験を踏まえ、

日勝作品をスライドで紹

介しながら、その特質を

独自の視点から分析しま

した。

続いて、前市立小樽美術館長で美術評論家の吉田豪介氏と土方氏、「ACT5展」を代表して画家の福井路可氏によるアートディスカッション。これは

ACT5展、また、神田日

勝記念美術館についての

展示などが語られました。

また、恒例となつた田中光俊氏によるギター演奏

も行われ、来場者は熱心に聴き入っていました。



「ACT5展」の作家

に談笑していました。



「ACT5展」

八月十八日～二十二日 鹿追町民ホール

「ACT5展」

は、道内在住の

画家五人による

二〇〇〇年から

隔年開催のグル

ープ展。メンバー

は、木村富秋、輪

島進一、矢元政

行、福井路可、森

弘志。

それぞれ、道

内では全道展に

所属し、東京で

の公募展や企画

展などでも活躍

する気鋭の作家

によるグループ

展として注目を

集めてきました。

今回は、札幌

と函館でも開催

され、鹿追展は

二〇〇二年に続

き二回目。

福井氏は、「互いの仕事が気になる存在。いい意味でのライバル。この展覧会で自分の仕事を確認し、時代が変わつても変わらないものを個々の視点で表現してゆきたい」と語っています。展覧会場でも来場者は作品の放つ強い魅力に惹き付けられていました。

味でのライバル。この展覧会で自分の仕事を確認し、時代が変わつても変わらないものを個々の視点で表現してゆきたい」と語っています。展覧会場でも来場者は作品の放つ強い魅力に惹き付けられていました。

「木下晋 絵本原画展」 —ハルばあちゃんの手—

十一月五日～十七日神田日勝記念美術館



織密な鉛筆画で知られる画家木下晋氏による絵本原画展が二階展示室を会場に開催されました。

原作は児童文学者の山中恒氏。あらましは貧しい漁村で生まれ育ったハルがユウキチと結婚し、ケーキ屋を営み、幸せな生涯を送るというもので

絵本制作にあたり、木下氏はさまざまな年代のモデルを求め、精緻な鉛筆画による絵本原画を仕上げました。

木下氏は一九九九年の「木下晋一えんぴつの世界」をはじめ、「人を描く」木下晋・緑川俊一

二人展」(一〇〇)、「人

を描くII」富山出身四人展」(〇三)、「武蔵野の作家たち」(〇四)に出品し、鹿追なじみの作家になりました。

本展では木下氏の絵本原画という新たな試みに触れる機会となりました。

織密な鉛筆画で知られる画家木下晋氏による絵本原画展が二階展示室を会場に開催されました。

木下氏は児童文学者の山中恒氏。あらましは貧

しい漁村で生まれ育った

ハルがユウキチと結婚し、

ケーキ屋を営み、幸せな

生涯を送るというもので

す。

絵本制作にあたり、木下氏はさまざまな年代のモデルを求め、精緻な鉛筆画による絵本原画を仕上げました。

木下氏は一九九九年の「木下晋一えんぴつの世界」をはじめ、「人を

描く」木下晋・緑川俊一

二人展」(一〇〇)、「人

を描くII」富山出身四

人展」(〇三)、「武蔵野の

作家たち」(〇四)に出品

し、鹿追なじみの作家に

なりました。

本展では木下氏の絵本原画という新たな試みに触れる機会となりました。



第四回日勝祭 文化講演会「米村晃多郎『土くれ』について あらひろこ・カンテレ演奏のタベ

十一月八日

鹿追町民ホール・神田日勝記念美術館

神田日勝の生誕を記念する催しとして画家の誕生日に実施されている日勝祭。

今回は、世田谷美術館長の酒井忠康氏を迎える日勝祭。

木下晋氏によるギヤラリー・トークが十二月九日、二回にわたり行われました。



木下晋氏

絵本原画展にあわせ、木下氏によるギヤラリー・トークが十二月九日、二回にわたり行われました。

木下氏は「神田日勝の作品と共に展示されることに緊張を感じる」と語り、絵本制作に関わったエピソードなども紹介。

来場者は木下氏の話に興味深く耳を傾け、あらためて絵本原画を熱心に鑑賞していました。



あらひろこ氏

に、神田日勝の芸術について語る文化講演会が開催されました。

酒井氏は「神田日勝は作家として迷いの中で亡くなつた。彼の作品はせつばつまた印象がある。」などと語り、「日勝は絵を通して何を訴えようとしたのか。その続

きの夢は私たちが見ることが重要」と語り、日勝の絵の魅力や美術館の今後の展開などにも言及し、来場者は熱心に聴き入っていました。

最後に美術館ロビーで交流会が行われ、神田日勝の誕誕を祝いました。

会場を展示室

に移して、あらひろこ氏によるフィンランドの民俗楽器カンテレによる演奏会が行われ、繊細で素朴な音色に聴衆はじっと耳を傾けました。

最後に美術館ロビーで交流会が行われ、神田日勝の誕誕を祝いました。

会場を展示室に移して、あらひろこ氏によるフィンランドの民俗楽器カンテレによる演奏会が行われ、繊細で素朴な音色に聴衆はじっと耳を傾けました。

最後に美術館ロビーで交流会が行われ、神田日勝の誕誕を祝いました。

第十一回馬の絵作品展

十月七日～十月十五日 鹿追町民ホール

表彰式

十月十四日 鹿追町民ホール



北海道教育委員会教育長賞
旭川市立西御料地小学校
3年 阿部 舞子



北海道知事賞
釧路町立遠矢中学校
2年 横島 未知



鹿追町教育委員会教育長賞
旭川市立日章小学校
6年 佐藤 智香



鹿追町長賞
鹿追町立上幌内小学校
6年 木幡 有紗



文部科学大臣賞
旭川市立光陽中学校
1年 山越 織江

今年は応募総数一二九八点。特に中学生の出品数が多く年々レベルも向上しています。文部科学大臣賞の旭川市立光陽中学校一年の山越織江さんの作品は躍動感あふれる力のこもったもので、この他、入賞十三点、入選三十二点、佳作四十九点が選ばれました。遠く宮崎県や鹿児島県からの出品などもあり、来場者は力作の数々に一つ一つていねいに入っていました。

また、本別町と別海町にも入賞・入選の作品が巡回しました。



川君と高野さん(左から)
今年から、鹿追高校のボランティア同好会のメンバーから三年の火の川司君と高野遙香さんが、馬の絵作品展の準備作業を手伝ってくれました。
作業内容は、馬の絵作品を出品者の名前書きと作品を紙額にのり付け。

鹿追高校生、ボランティアとして活動

今年から、鹿追高校のボランティア同好会のメンバーから三年の火の川司君と高野遙香さんが、馬の絵作品展の準備作業を手伝ってくれました。作業内容は、馬の絵作品を出品者の名前書きと作品を紙額にのり付け。

めだたない仕事ですが、大事な準備作業なので、記念美術館への大きな援助となりました。



会場の様子



文部科学大臣賞の賞状を受け取る
山越織江さん

表彰式には愛媛県や青森県からの受賞者も参加し、関心の高さをうかがわせました。

今年から、神田日勝の「馬(絶筆)」をデザインした鹿追焼きの陶板時計を副賞したものもあり、受賞者は思わず賞品に嬉しそうな様子をみせていました。表彰式のあと、会場で記念撮影をしたり、美術館で、神田日勝の作品に感激している姿も見られました。

馬の絵写生会

八月四日 ライディングパーク



中学三年生一名、小学一年生十一名、二年生八名が参加。炎天下の中、体験乗馬を楽しみ、一生懸命馬の写生に取り組みました。

脇坂裕・眞鍋幸恵両講師が、馬のとらえ方や絵の具の混ぜ方、筆の使い方などをていねいな指導もあり、参加者は自分の作品に満足していたようです。午後雷雨のため隣接するウリマックホールで作品を仕上げました。

アート・キッズ・クラブ2006

五月二十日～翌年三月三日
鹿追町民ホール

週末活用の一貫として開始されたアート・キッズ・クラブも四年目を迎え、楽しい工作クラブとしてすっかり定着してきたようです。



uchiwa製作(6/24)



コースター製作(7/15)

前半はしきけおもちゃややりサイクル工作が中心です。

四回目(八月二十四日)は涼しげなうちわ、三回目は厚紙を活用したコースターを製作。

参加した三十名ほどの子どもたちは、同じ顔ぶれが続くようになっていました。また、小学校低学年の参加者が多いため、お母さんや常連もあり、いつもながら雰囲気に包まれ、楽しく取り組んでいるようです。

アート・キッズ・クラブでは、神田日勝記念美術館の鑑賞もあり、たんけんカードにあるクイズに挑戦して、会員証にシールを貼つてもらうなどの楽しみも用意しています。



親子で塗り絵パズルに挑戦(3/3)



勢揃いしたコルクマン(11/11)



製作したコルクマンを持って得意げ(11/11)

五回目(十一月十日)はコルクの栓を活用した愉快なコルクマン製作。簡単に楽しいコルク人形ができるので大好評でした。

六回目(十二月九日)はダンボールを活用した立体すごろく製作。

七回目(一月二十日)は江戸時代の郷土玩具「ずぼんぼ」を応用した和紙の猫を作成。うちわであおぐとふわふわ浮くのですが、じみの足が重くうまく浮きませんでした。

最終回の八回目(三月三日)は神田日勝の「画室C」を塗り絵風にしたパズル製作。親子で取り組む姿も見られました。

初めてキッズ・ボランティアが活動

五月二十日～十一月九日 鹿追町民ホール

今年度から新たな試みとして児童対象のワークショップやアート・キッズ・クラブの活動に高校のボランティアを募集。鹿追高校のボランティア同好会の申込みがありました。

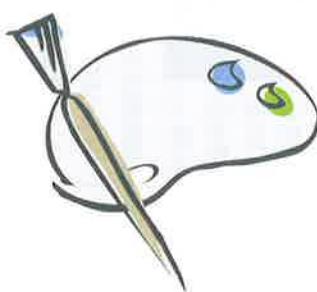


ミニプラネタリウム(8/26)



立体すごろく製作(12/9)

特に鹿追高校三年の高野遙香さんはアート・キッズ・クラブに四回参加して子どもたちの製作の補助や活動の様子をデジタルカメラで撮影するなど活躍し、子どもたちの輪に溶け込み、楽しそうでした。



夏休み子どもワークショップ
「木の動物パズルを作ろう!」

八月十二日 鹿追町民ホール



桂の板材による動物パズル製作に小学生二十一名と幼児と母親各一名の計二十三名が取り組みました。ネコと海の動物の二種類のあらかじめ糸鋸(のこ)で切ってあるものに紙ヤスリをかけ、アクリル絵の具を塗つて仕上げます。同じ配色にして目や模様を描く人や、配色を工夫して青やピンクなどに塗り分ける人などもいて、パズル製作を楽しみました。

完成するとばらばらにして、パズルで遊んだりしている人もいました。

冬休み子どもワークショップ
「ゆかいななべしきを作ろう!」

一月十二日 鹿追町陶芸工作館



陶芸工作館の三上技師を講師に、十一名の小学生が鹿追焼き用粘土によるなべしき製作をしました。粘土のこね方、丸い棒を使って平らにのばし、表面に木や金属の型押しの道具を使って、スタンプを押すように凹凸をつけます。

参加者は、粘土を平原にのばすのに苦労したり、もううの付け方を工夫するなど、皆真剣に取り組みました。成型し終わった作品は、一ヶ月後に、素焼きと本焼きを経て、ウラにゴルクを貼り、なべしきとして実際に使えるので、皆大事そうに持ち帰りました。

春休み子どもワークショップ
「バードテーブルを作ろう!」

三月二十七日 鹿追町民ホール



鹿追町内の大工の名野孝次氏と菅原重雄氏を講師に迎え、桂やくるみの間伐材を活用したバードテーブル製作にチャレンジしました。幼児二名と大人一名と小学生二十名が大工さんの指導で、金づちで釘打ちをして、立派なバードテーブルが作られました。

最初はうまくできなかつた人も少しづつ一人でも金づちが打てるようになつたようです。皆真剣に取り組み、一つ一つデザインが異なるバードテーブルに満足し、「早く庭に野鳥が来ないかな」と目を輝かせていました。

感想ノートより一覧

どうしても観たくて、仕事があるのにもかかわらず、200km以上車を走らせて来ました。10分も観ることができませんでしたが、来てよかったです。本当は一日中いたいくらい、すばらしい作品ばかりです。今度はいつ来られるのか…。

2006.4.20 S

見に来たいと思っていた。73才にしてやっと来れた。
涙が出た。馬、牛を描いたものを見て。

9.17 北見市 M

やっぱり何度も感動します。
また、特別展ということで、他の作家の作品も観ることができ、二重の感動です。また来ます。

11.10 S

20年ぶり以上かな、鹿追町に足を踏み入れました。なつかしさと立派な建物にびっくりしたのと…
また、自分の子どもたちが絵を見ることがわかるようになったらぜひ来てみたいと思います。ありがとうございました。心が満たされた時間、ありがとうございます。

12.5

ほんとうにじゃがいもが描いてある絵のやつがほんとうにじゃがいものあるように見えた。

2007.1.6 Y

福岡から来ました。美術館に入った瞬間、ベニヤ板のにおいが心に残りました。
未完成の馬の絵がよかったです。

3.3 M.M

ここには3回来ましたが、何時も魂があらわれるような感じを受けています。

3.21 帯広市 O



町内の小中学校の神田日勝についての授業の取り組みから

透明小学校

十二月七日、三年生以上十名が引率教師二名とともに来館。担当職員の解説を聞きながら、神田日勝の作品を鑑賞しました。



鹿追中学校



瓜幕小学校

三月十四日に三年生以上二十八名と引率教師一名が来館。ロビーでDVDを鑑賞したあと、展示室でワークシートを使い「作品出てくる人や動物に心の中でインタビューしてみよう」などの課題に取り組みました。

三月十三日に全校生徒四十名と引率教師九名が来館。学芸員によるスライド解説を聞いてから展示室で作品の説明を受け、「神田日勝は意外に〇〇な人だった!」をキーワードに話し合いを進め、〇〇には「身近」という言葉が入ることを確認したり、作品の感想を述べあつたりしました。



瓜幕中学校



美術の鑑賞授業として十二月十一日と十三日に二年生が各二十一名ずつ来館して、テレビ東京の「美の人たち」のビデオ鑑賞のあと神田日勝記念美術館の常設展と木下晋絵本原画展を鑑賞。その後、町民ホールでワークシートを使って神田日勝と木下晋のそれぞれ気に入った作品を選び、その理由や表現の特色について自分なりの意見や感想などを記入しました。

子ども芸術鑑賞ツアー

十月十八日 北海道立帯広美術館



展示室入り口で全員で記念撮影

北海道立帯広美術館で「チエコ絵本とアニメーションの世界」展と「十勝の新時代VI 近藤みどり展」を鑑賞しました。参加者は、小学生十名、親二名、幼児一名の計十三名。

チエコ絵本は、赤ずきんなどのグリム童話の他動物や虫や小人などファンタジックな絵柄の原画や絵本などが展示され、展示室の一角にはアニメーションも上映され参加した子どもたちは気に入ったアニメを食い入るように見つめたり、クイズに挑戦し「もぐらのクルテクは何をしてるかな?」などの質問を見て作品をじつと眺め、答えを記入したりしました。

近藤みどり展も鑑賞し、幻想的な画面に見入ったりしました。

また、簡単な工作教室のしかけ絵にも二名が挑戦し、帯広美術館のボランティアの方々の指導で楽しく製作していました。

芸術鑑賞バスツアー

十一月十一日 美唄市・滝川市・深川市



アルテピアツア
美唄(美唄市)・滝川
川美術自然史館、
そしてアートホール
東洲館・向陽館(深川市)を巡るツア
に十四名が参加。
滝川では日本画家
岩橋英遠の作品な
ど、深川では東洲
館で「十号展」、向
陽館では高橋要の
作品などを鑑賞し
ました。

「馬(絶筆)」をイメージした お菓子発売

鹿追町長が柳月製

菓に「神田日勝をPR
できるお菓子を作つて
ほしい」と要請。

パッケージに神田日
勝の「馬(絶筆)」をあ
らわしたデザインをほ
どこし、十勝産の小麦
や鹿追のそば粉を練
り込んだ焼き菓子が
完成。「Nissho」と
して七月八日から販
売を開始しました。



「馬(絶筆)」とお菓子をあしらった旗

かねてから要望のあつた神田日勝記念美術館のホ
ームページが、武田耕次氏を実行委員長とする神田日勝
記念会により完成、平成十九年四月一日より正式オ
ープンの運びとなりました。

準備には、友の会のメンバーや美術館職員などが加
わり北海道ツーリズム協会の田畠貴章氏を中心、具
体的なイメージやデザイン、コンテンツ、配色などどのよ
うなホームページがふさわしいか、さまざまな観点から
協議されました。

またホームページをオープンするにあたり、必要な機
材の購入に際し、友の会が募金活動を行い、パソコンを
鹿追町に寄贈しました。

ホームページのオープンにより、美術館から展覧会や
イベントなどの情報発信ができるようになり、美術館
の知名度アップが期待されます。



ホームページがアップされた画面
神田日勝記念美術館のホームページのアドレス
<http://kandanissho.com/>

神田日勝記念美術館の ホームページを開設 ホームペー ジを開設 四月一日正式オープン